

7th

伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト

伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト

入 選 作 品

主催 若柳町、築館町、迫町、宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団
主管 伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト実行委員会
後援 宮城県、若柳町観光協会、築館町観光協会、迫町観光協会、
河北新報社、読売新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、岩手日報社、
宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会
協賛 富士フィルム株式会社、宮城県写真材料商組合

入 選 者

各 賞	題	氏 名	住 所
最優秀賞 (宮城県知事賞)	コロニーの朝	伊 藤 利喜雄	岩手県一関市
優秀賞 (宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団理事長賞)	雁行25000羽	岩 松 兵 吉	仙台市青葉区
金 賞 (若柳町長賞)	秋の訪れ	佐 藤 文 昭	登米郡迫町
金 賞 (築館町長賞)	伊豆沼と漁師	林 茂	仙台市若林区
金 賞 (迫町長賞)	朝餌場へ飛び立ち	鎌 田 和 則	仙台市宮城野区
銀 賞 (若柳町観光協会会長賞)	雪中に集う	天 野 宗 謙	仙台市青葉区
銀 賞 (築館町観光協会会長賞)	内沼の夕暮れ	鈴 木 正 一	仙台市泉区
銀 賞 (迫町観光協会会長賞)	唄声高く漁婦りのおじいさん	大 場 宗 男	栗原郡若柳町
銀 賞 (宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会会長賞)	蓮の咲く頃	栗 林 直 昭	仙台市青葉区
銅 賞 (河北新報社賞)	生きるために	根 本 弘 美	黒川郡富谷町
銅 賞 (読売新聞社賞)	蓮	四日市 健	仙台市青葉区
銅 賞 (朝日新聞社賞)	羽ばたいて	石 森 幸 明	仙台市青葉区
銅 賞 (毎日新聞社賞)	霧の日の糸トンボ	伊 藤 孝 喜	登米郡中田町
銅 賞 (岩手日報社賞)	朝霧&仕事人	駒 口 昭 浩	遠田郡南郷町
入 選	暁光の中で	高 橋 昭 子	仙台市青葉区
入 選	陽光鳥映	菅 原 敏 彦	黒川郡大和町
入 選	いっしょに行こう	菊 地 誠 一	宮城県石巻市
入 選	花に舞う	佐々木 伸	登米郡中田町
入 選	冬日	小 坂 礼 雄	登米郡迫町
入 選	蓮の花の咲く頃	伊 藤 浩	宮城県古川市

総 評

伊豆沼・内沼は世界的にも貴重な野性鳥類の楽園です。この素晴らしい環境を写真を通して多くの人々に訴えていくことは、とても意味のあることだと思います。写真を撮る人が、野鳥の環境を脅かしているなどという意見が出ないようにしたいものだと思います。しかし、中には意欲的になるあまり、つい木の枝を折ったりして自然の美を損ねてしまった、というようなこともあるかと思います。ぜひ、環境を損ねることの無いように注意して撮影を続けていただきたいと思います。

さて、今回は力作が多く集まりました。写真愛好家と伊豆沼・内沼との関係が、ますます深まっていい関連が生まれてきつつあるようにおもえるのです。伊豆沼・内沼は一年を通して魅力的な被写体が溢れているところです。被写体を野鳥だとかハスに絞ることなく幅広い取材を続けて行って欲しいとおもいました。

フォトコンテスト審査員 竹内 敏信



1943年愛知県生まれ。名城大学卒業後、愛知県庁勤務を経て写真家として独立。間隔の鋭さと独特のカメラワークで、自然の映像化を極め、新しい風景写真家の旗手として活躍中。93年春、「桜」をテーマに日本原風景を追究したビジュアルな写真展を開催、話題を集めた。現在、日本写真家協会、日本旅行作家協会の各会員、日本写真芸術専門学校、現代写真研究所の各講師。

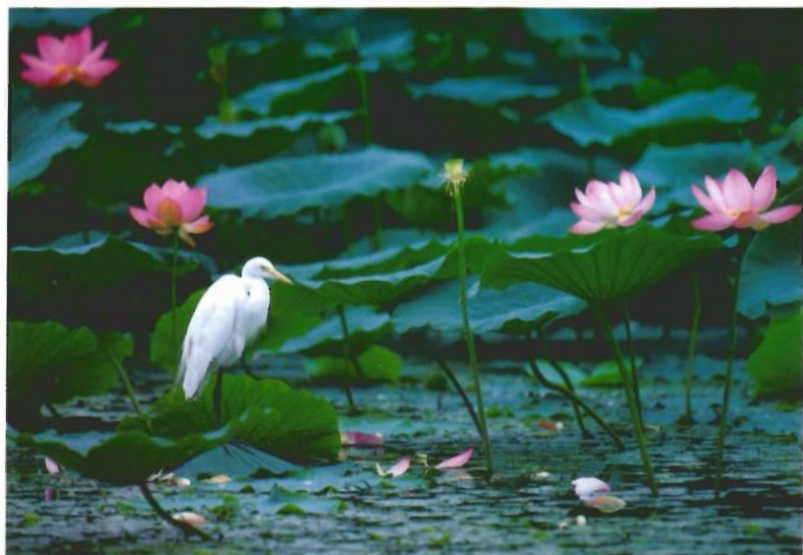


【評】 早朝、湖畔に群舞するサギを美しく捉えています。湖水に留まる鳥と、上空を乱舞する鳥とがシャッタースピードの効果によって、美的にフォトジェニックな味わいを出しています。伊豆沼・内沼の新しいイメージを生み出すことに成功しています。ブルートーンが美しく、写真ならではの味わいが出た作品です。



【評】 これこそこの湖沼地帯の誇り。25000羽もの野鳥がいっせいに飛び立って、その羽音の響きが画面から伝わってくるようです。朝焼けのグラデーションの中に鳥の群れが雄大なシルエットを浮かび上がらせていて、スケールの大きな作品となっています。

金賞（若柳町長賞）
「秋の訪れ」
佐藤 文昭



【評】 初秋の風景なのでしょう。散りかけたハスの花。一羽のサギの姿にも、夏を惜しむような雰囲気があり感情的なもの悲しさがただよっています。やや暗いトーンの中に、くっきりとハスの花と鳥が浮かび上がった美しい作品です。

金賞（築館町長賞）
「伊豆沼と漁師」
林 茂



【評】 初秋の伊豆沼に残っているハスの群れ。これが美しく造形的なバランスで捉えられ、その中に浮かぶ小舟を印象的に捉えています。逆光で撮影しているために、コントラストが高くなり、それが一層フォトジェニックな印象になりました。

金賞（迫町長賞）
「朝餌場へ飛び立ち」
鎌田 和則



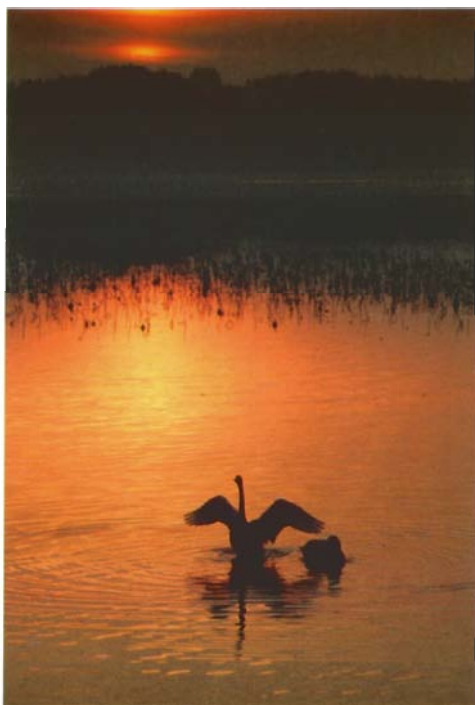
【評】 超望遠レンズを使い、太陽を印象的に捉えて成功しています。飛翔する鳥の群れと太陽と水面の反射とのバランスが美しく、印象的に仕上げた面白い作品になりました。



銀賞（若柳町観光協会会長賞）
「雪中に集う」 天野 宗謙

【評】 白い雪のなかに群れるカモの姿を、とても美しく捉えています。まだ降り続けている雪の描写も適切で、真冬の沼の姿が印象深く伝わってきます。このような視点の作品が、もっと集まっていいのではないかと思います。

銀賞（築館町観光協会会長賞）
「内沼の夕暮れ」 鈴木 正一



【評】 水面で羽ばたく白鳥を巧みなシャッターチャンスで捉えて、強い印象の作品となりました。水面に反映する夕焼けと水に微妙な味わいがあり、遠景の描写とのバランスがとてもいい作品です。

銀賞（迫町観光協会会長賞）
「唄声高く漁帰りのおじいさん」 大場 宗男



【評】 いささか長いけれど、なかなかドラマチックなタイトルです。枯れてしまったハスの葉がとても面白く、それと朝霧との対比も美しい。ただ、この場合は空の分量が多すぎるので山の稜線あたりに止めると引き締まった画面になりました。

銀賞（宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会会長賞）
「蓮の咲く頃」 栗林 直昭



【評】 これほどまでのハスがいっせいに咲き誇るころは、全国的にみても珍しい。貴重なハスの楽園です。沢山咲いたハスの花と、遠景に小舟を配して夏の素晴らしい沼を描きだしています。

銅賞（河北新報社賞）

「生きるために」

根本 弘美



【評】 逆光で追い写しをして白鳥の動きの瞬間を美しく捉えています。低い太陽が赤味のある色合いを引出し、雰囲気を感じさせています。飛沫がとても美しく、写真ならではの効果を上げています。

銅賞（読売新聞社賞）

「蓮」

四日市 健



【評】 蓮の葉と花だけを捉えた単純な構成ですが、中々味わいがあります。美しい作品になっています。晩夏の沼の雰囲気が、この小さな空間からしみじみと伝わってくるのです。

銅賞（毎日新聞社賞）

「霧の日の糸トンボ」伊藤 孝喜



【評】 朝露を全身に受けて休むイトトンボを逆光のライティングで美しく捉えています。背景が大きくボケて、ポイントが抽出されました。それゆえ、水滴が輝いて見えています。

銅賞（朝日新聞社賞）

「羽ばたいて」

石森 幸明



【評】 刈り入れの済んだ水田に鴨が群舞しています。秋の季節感が稲、スキ、野鳥という3要素で構成されていて素晴らしい。ライティングも逆光で効果的です。

銅賞（岩手日報社賞）

「朝霧&仕事人」

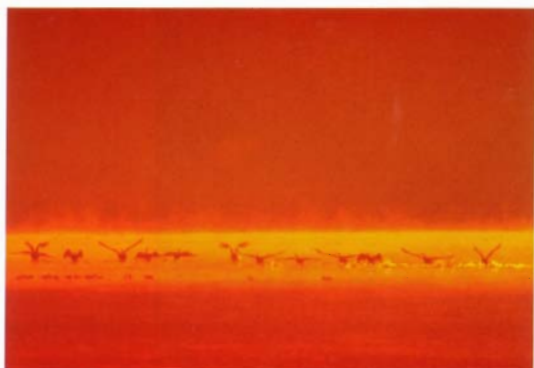
駒口 昭浩



【評】 朝霧の中で漁をする人をシルエットで捉えて印象的な作品に仕上げられています。モノトーンの色調が美しく、静かな雰囲気がとても素晴らしいと思います。

入選
「暁光の中で」

高橋 昭子



【評】湖面のハクチョウの動きを、美しい色合いのハーフトーンで引き出していて新鮮です。画面が大変シンプルで、静かな印象が強いのですが、それでいて十数羽の鳥がリズムカルで動きがあり、面白いのです。

入選
「陽光鳥映」

菅原 敏彦



【評】超望遠レンズを効果的に使い、ドラマチックなイメージに仕立て上げています。輝く水面の上を飛翔する野鳥を一羽配したことで、瞬間的な面白味が加わり風景写真としての奥行きが増しました。

入選
「いっしょに行こう」 菊地 誠一



【評】野鳥と遊ぶ幼児の姿を、たいへん微笑ましく捉えています。このように、幼い頃から自然に接し、自然とともに成長していけるような環境を生み出したいというメッセージが込められているようです。

入選
「花に舞う」 佐々木 伸



【評】夏の伊豆沼は、かくの如く豊かな水生植物に覆われ、鳥や魚の楽園になっています。ということ象徴的に表している作品です。花の状況、フレーミング、シャッターチャンスともいいタイミングでまともっています。

入選
「冬日」

小坂 礼雄



【評】湖面が凍りつき、雪が表面を白く染めて面白い造形模様が生まれました。それを、形として狙って構図を完成させています。そして、湖上で羽を休める野鳥たちの足跡がコミカルです。

入選
「蓮の花の咲く頃」 伊藤 浩



【評】夏の伊豆沼は、これほどまでのハスに覆われるのかと思うと、驚異でもあります。ここに集まるシラサギなどを遠景に配して、うまくまとめています。春や夏の風景も特徴的で、もっとこの時期の作品を狙って欲しいと思います。